

人権教育参観日では、家庭の基本的な生活習慣を見直すため、『テレビやゲームと上手につきあおう』などの公開授業を行ったり、NPO法人こども未来ネットワークの渡部万里子さんが「子どもの生活とメディア」と題して話されました。



保護者に向け渡部さんが話す

【日野中学校】

●PTA人権教育講演会

6月25日、日野中学校図書室で平成25年度PTA人権教育講演会が開かれました。元日野中学校校長の谷本和賀雄さんが『子どもに学ぶ』と題して話されました。

●人権弁論大会および文化祭

学級人権弁論大会を行い、クラス全員が人権について、お互いの

思いを発表し合いました。

また、11月2日の校内文化祭では、それぞれの学級の代表による人権弁論発表や、学年ごとに人権劇を披露しました。

●人権教育参観日(兼日野町人権・同和教育推進協議会保学部会研修会)

11月20日、人権教育参観日に併せて、保学部会研修会が行われました。全クラスの公開授業が行われたほか、元鳥取県人権教育アドバイザーの足羽隆さんが『心を育て心をつなぐ人権教育』と題して話されました。

【日野高校】

日野高校では、性教育、WYSH教育を含め、広く人権について学ぶ教育を行っています。

〈5月〉「仲間づくりWYSH教育」

対象…1年生

この教育は、京都大学大学院准教授 木原雅子さんを中心に研究・開発された教育です。

調査・研究された背景は、1990年代、若者の間に性の問題をはじめ、いじめ、万引き、不登校、暴力など、さまざまな問題が噴出したため、結果、家族や教師を含めた人間関係が大きく関係して

いると立証されました。

そこで、『人間関係の回復』を根底に据えたWYSH教育が開発され、現在、全国で展開されており、日野高校で取り組みはじめて、4年目を迎えます。

「WYSH」とは、Well-being of Youth in Social Happiness (若者の真の幸福)の略であり、すべての子どもたちが心身ともに健やかで幸せに暮らすことができる社会を目指す決意の言葉です。

〈7月〉「性教育講演会」対象…全生徒

演題…命に輝きを！育んでください
いと夢く西アフリカ・セネガルでの生活体験から想うこと
講師…エゾモ美香さん



エゾモ美香さんの話を真剣に聞く生徒ら

〈9月〉「デートDV学習会」対象…全学年



デートDVについて積極的な意見交換

〈10月〉「移植医療を通していのちについて考える学習会」対象…1、3年生

講師…永栄幸子さん

〈11月〉「命の大切さを学ぶ教室」

演題…亡くなった娘からの生命(いのち)のメッセージ
講師…江角由利子さん

〈11月〉「人権教育ロングホームルーム公開授業」

・各学年テーマ

- 1年…身近な差別と人権
- 2年…性感染症とその予防・日野高校のWYSH教育
- 3年…結婚ってどんなもの？



交流を終え、みんなで記念撮影

近年、日野町の高齢化率は40%を超え、地域の中では、独居や65歳以上の夫婦二人で生活されている方、施設へ入所される方も増えています。また、少子化も進んでいます。

子どもたちが将来なりたい職業は、トリマーやパティシエ、美容師など、時代の流行に合わせ常に変化する中、「少しでも看護・介護にかかわる仕事に興味や関心を持ってほしい」という職員の思いがきっかけで、小中学校の児童生徒を対象に、介護教室を開かせていただくようになり、今年で4年目になりました。



段差を乗り越えるときは怖いんだね

高齢者疑似体験を行い、視野が狭くなる眼鏡を付けたら、おもりを体に付け片麻痺を体験してもらいました。子どもたちには、二人一組で介助する側、される側になり、段差やでこぼこ道、障害物を避けて通ることを体験してもらいました。「段差があるよ、気をつ

ました。高年齢者疑似体験を行い、視野が狭くなる眼鏡を付けたら、おもりを体に付け片麻痺を体験してもらいました。子どもたちには、二人一組で介助する側、される側になり、段差やでこぼこ道、障害物を避けて通ることを体験してもらいました。「段差があるよ、気をつ

◆事業所の取り組み

交流を通して優しい心を

医療法人社団日翔会 総務課 課長 石田絵里

【小学校】

▼お年寄りは自分と何が違うの？
どんなことに困るんだろう？

7月2日、『自分との違いに気づき、声をかけ、助け合うことができる』という目標を挙げ、根雨小学校3年生との介護教室を開きました。

けて」などと優しく声を掛け合いながら学んでいました。

感想では「お年寄りは自分よりも目が見えにくくて、体が重たくて大変と分かったから、これからは手伝ってあげたいと思いました」と発表してくれました。

▼自分たちにできることをしてあげたい！

10月17日、1学期に介護教室を行った根雨小学校3年生が、「自分たちにできることは何か考え、行動しよう！」と相談し、おしとび荘を訪問してくれました。交流ゲームでのふれあいやかわいらしい歌の披露に、利用者の皆さんは目を潤ませて喜ばれました。

最後には、3年生14人が心を込めて折った折り紙を利用者一人一人手渡してくれました。その数は200個以上もあり、「おじいさん、おばあさんが喜んでくれるかなあ」と思いながら、休憩時間を使ってみんなで折ったんだよ」と子どもたちは教えてくれました。本当に感激しました。

後日、3年生から届いた手紙には「どんなことをしたら喜んでもらえるか分からなくて悩んだけど、一生懸命歌を歌ったら泣いて